

令和元年度 第1回さいたま市食育推進協議会 会議録

◎ 日時 令和元年7月17日(水) 14時00分～15時30分

◎ 場所 さいたま市役所 議会棟 第6委員会室

◎ 出席者

(委員) 田中委員(会長)、若杉委員、金沢委員、秋山委員、加藤委員、湊委員、鹿島委員、
吉田委員、磯部委員、佐藤委員、小澤委員、溝口委員、江崎委員、中川委員

(職員) 保健部：佐藤部長

健康増進課(事務局)：星野課長、橋詰課長補佐、大久保主任、河野主事

保育課：瀧本栄養士、農業政策課：坂口主事、健康教育課：佐藤指導主事

(傍聴人) なし

◎ 欠席者

(委員) 野口委員

◎ 資料

(事前配付)

- ・次第
- ・さいたま市食育推進協議会設置要綱、運営要領
- ・さいたま市食育推進協議会委員名簿、(裏面に)職員名簿
- ・資料1 第3次さいたま市食育推進計画 進行管理表
- ・資料2 さいたま市の食育取組状況 平成30年度実績及び令和元年度予定
- ・資料3 令和元年度の食育関連事業(予定)
- ・資料4 朝ごはんを食べよう強化月間リーフレット(案)
- ・資料5 さいたま市食育・健康なび リーフレット
- ・資料6 さいたま市食育なび アクセス数の推移
- ・資料7 さいたま市食育なび 団体会員登録申請書
- ・第3次さいたま市食育推進計画 計画書・概要版

(当日配付)

- ・座席表
- ・平成30年度さいたま市 乳幼児期における食育取組事例集
- ・ウェットティッシュ
- ・クリアファイル「食育のススメ」
- ・日曜日は食べつくスープ！(パンフレット)
- ・トレトリ(農情報ガイドブック、マップ)

- ・さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向け
- ・食育月間・食育の日 普及啓発ポスター
- ・「食育活動表彰」チラシ

◎ 議事概要

1 開会

- ・事務局より、資料・配付物の確認

2 委員紹介

- ・各委員より自己紹介
- ・佐藤保健部長より挨拶
- ・事務局より、欠席者報告、職員紹介、議事録公表の確認

3 会長の選出

- ・委員の互選により田中委員が会長就任
- ・田中会長より挨拶
- ・田中会長の指名により、秋山委員が会長職務代理に就任

4 議事

(1) 第3次さいたま市食育推進計画について

事務局：(第3次さいたま市食育推進計画の計画期間、推進体制、進行管理と評価、食育の基本理念、食育の目標「さいたま市5つの『食べる』」、重点プロジェクト、小目標、数値目標について、計画書に基づき説明)

会 長：ただいまの事務局の説明について、ご質問などいかがか。

会 長：計画の2年目、2019年は、さいたま市の中でどの辺に重点を置くのか。

事務局：食育の目標「5つの『食べる』」を1年度ごとに重点目標に設定している。今年度が計画期間の2年目なので「いっしょに楽しく『食べる』」を重点目標にしている。机上配付資料の中で、ポスターは、「いっしょに楽しく『食べる』」をテーマに小・中学生に絵を募集し、選んだもの。市内の幼稚園、保育園、学校、公共機関などに配付・掲示し、周知・啓発を図っている。5つの目標全部に取り組みつつ、特に「いっしょに楽しく『食べる』」を強化している。

会 長：「共食」ということである。

(2) 第3次さいたま市食育推進計画の進行管理について

- ・ 第3次さいたま市食育推進計画 進行管理表 資料1
- ・ さいたま市の食育取組状況 平成30年度実績及び令和元年度予定 資料2

事務局：(第3次さいたま市食育推進計画の進行管理について、資料に基づき説明)

資料1 進行管理表は、計画の進捗状況を確認し、取組の評価・見直しを行うために使用するもの。食育の目標「5つの『食べる』」について、1つの「食べる」を1シートとし、それぞれ5年間の推移が見えるようにしている。

- ・シートの上半分は数値目標の推移。数値目標は、主に市民意識調査の結果をもとに設定しており、次回の調査は令和3年度に実施予定。調査を行わない年は、濃いグレーに塗りつぶしてある。
- ・薄いグレーに塗りつぶしてある部分は、他の部署で実施した調査結果等を、モニタリングのために記載したもの。目標値を設定した際の調査とは、調査方法や対象が異なるので、あくまでも、令和3年度に本格的な調査を行うまでの3年間の推移を把握するための参考値である。
- ・4ページ下、「食育の推進」の数値目標⑯⑰は、「5つの『食べる』」すべてに関わる内容だが、スペースの都合で“「まごころに感謝して」食べる”のシートに記載している。
- ・5ページの数値目標⑬⑭は、市民意識調査とは別の方法で調査しており、毎年数値が確認できるため、グレーの塗りつぶしはない。
- ・シートの下半分は、主な取組について、各年度の成果・課題を記入していく。

資料2 「さいたま市の食育取組状況」をもとに、総括として記入する。

- ・各団体、各部署で、対象とするライフステージや、実施内容は異なるが、それらを合わせると、計画の目標に対して、抜けている項目はない。だが、ここ数年、取組には大きな変化もない状況。市民一人ひとりが望ましい食生活を実践できるよう、各取組について効果を検証し、改善しつつ継続していくことが必要。また、各団体、各部署が個別に取り組むだけでなく、周知や実施において、連携を進めることが重要である。

会長：ただいまの事務局の説明について、ご質問などいかがか。

資料2 で、目標「5つの食べる」の該当するところに○が付いているが、どのくらいの割合で付いているのか。何パーセントくらい取り組んでいるのか。

事務局：割合は出していない。「三食しっかり」の取組が比較的多く見られる。例えば、朝食を食べる、規則正しい食生活、バランスのよい食事などの内容。手薄になっていると感じるのは「食品表示」「食料備蓄」の取組。割合は次回の協議会で報告したい。

会長：数だけではないが、一つの参考として質問をした。

(3) 令和元年度の食育関連事業について

- ・さいたま市の食育取組状況 平成30年度実績及び令和元年度予定 **資料2**
- ・令和元年度の食育関連事業 (予定) **資料3**
- ・朝ごはんを食べよう強化月間リーフレット (案) **資料4**

事務局：本市の食育関連事業について、新たな取組や特色のある取組を中心に、各担当から

説明させていただく。

保育課：資料2 16 ページ「食物アレルギー研修会及び講演会」について説明する。

保育課が平成29年度より実施している食物アレルギー調査によると、平成30年5月1日現在、さいたま市の保育施設の児童のうち、約5.1%が食物アレルギーを有していた。各保育施設におそらく1名以上の食物アレルギー児が在籍するという実態の中で、保育施設へ食物アレルギーに関する正しい知識を伝え、適切に対応する必要があると考えた。その手段として、「食物アレルギー研修会」を実施した。食物アレルギー児が在籍する保育施設のうち、アナフィラキシー児やエピペンを預かっている児童が在籍している保育施設を中心に、アレルギー対応についての講話と練習用のエピペンをを用いた実技講習というかたちで研修会を実施した。さいたま市民医療センター小児科の小児アレルギーエドゥケーターの方々に講師を引き受けていただき、平成30年度は11回実施した。

「食物アレルギー講演会」は、平成28年度より毎年、市民会館おおみやにて実施している。講師は、同じくさいたま市民医療センターの小児科診療部長の西本創先生にお願いしており、市内外問わずどなたでも参加可能としたことで、保育施設・幼稚園職員、学校教職員、医療関係者、保育施設保護者、自治体職員など、より多くの方に参加いただくことができた。食物アレルギーに対する考え方が大きく変化しており、以前に指導されていた「妊娠中や授乳中に卵や牛乳を食べない」、「離乳食を遅らせたほうがよい」という説は、すでに根拠がないと否定されている。では、どういうことに注意すればアレルギーにならないのか、スキンケアによる経皮感作の予防、食物負荷試験や経口免疫療法といった最新のアレルギー診療、厚生労働省、文部科学省のガイドラインに基づいた給食など、集団生活における対応を西本先生に解説していただいた。

食物アレルギー研修会及び講演会を毎年実施していることで最新のアレルギー情報を共有することができている。また、繰り返し講義を受けている職員からは、自分の知識として持っているだけでなく周りの職員にも伝達することができている、という声をいただいた。どちらの事業も引き続き今年度も実施予定。今年度の食物アレルギー講演会は、10月26日（土）に市民会館おおみやにて実施予定。

農業政策課：資料2 17 ページ「さいたま市農情報ガイドブック・マップ作成」、机上配付の「トレトリ（農情報ガイドブック・マップ）」について説明する。

市内の観光農園、直売所、農業関連のイベント、特産品を使ったスイーツやレシピを掲載しており、市民が市内産農産物を食べてみたくなるような内容を心がけて作っている。「トレトリ」は平成27年度から発行しており、年々発行部数を増やしている。新聞などでも取り上げていただき、市民からも多く問い合わせをいただいている。今年度は2月末に作成予定で、昨年度の16,000部から部数を増やし、23,000部作成、配布予定。主に各区役所の情報公開コーナーで配布。「トレトリ」を見た方からは、「トレトリを見て市内の特産品を知った」、「直売所に行ってみた」といった声を聞いている。今後も「トレトリ」を使って地産地消を推進し、市

民へ農産物をPRしていきたい。

健康教育課：資料2 24～25ページの取組うち、昨年度から新たに取り組んだ内容として、25ページの「学校給食統一献立」について説明する。

教育委員会とさいたま市学校栄養士会（学校にいる栄養士が作っている団体）とシェフクラブSAITAMA（さいたま市内のレストラン、ホテル等のシェフの方々で作られている団体）が連携し、さいたま市内産もしくは埼玉県内産の、地場産物といわれる食材を活用した給食を、全校一斉、同じ日に提供するという取組。この取組を通して、児童・生徒や保護者の皆様、地域の方々の、学校給食や地場産物への興味・関心を高めること、地域への愛着を深めることを目的に実施した。実施対象は、市立小学校・中学校・特別支援学校（学校給食を実施している学校）。昨年度は11月に実施。原則として同じ日に実施したが、行事があり都合がつかない場合は別の日に実施した。実施方法は、献立は同じ内容とし、カレーライス、牛乳、サラダ。その中で市内産のものは、カレーライスのお米、カレーライスのさつまいも、サラダにカリフローレを使った。献立は、さいたま市学校栄養士会、シェフクラブSAITAMAの各団体の代表者と打合せを行い作成し、実施に向けて取り組んだ。地場産物の活用については、お米は、ここ数年継続しているが、埼玉県の学校給食会から、市内産のものを11月に給食で使えるよう手配していただいた。さつまいもは農業政策課にさつまいもを作っている団体を紹介していただき、そちらから各学校へ市内産のさつまいもが手に入るよう手配していただいた。カリフローレはさいたま市で生産が増えているヨーロッパ野菜の一つで、シェフクラブSAITAMAから紹介いただき給食で活用できるように取り組んだ。市の基本献立にレシピを掲載し、なるべく同じ日に統一献立を提供した。提供するだけでなく、資料2で「共食」に○をつけているが、給食実施日にカリフローレの生産者、シェフクラブSAITAMAの方に、何校かに訪ねていただき、子どもと一緒に会食ということも実施した。普段の給食も各学校の栄養教諭・栄養職員の皆さんが努力しており、子どもたちはとても喜んで食べているが、いつもと違った給食ということで、新たな興味・関心を引き出すことに役立ったと感じている。

今年度も同様の取組を進めており、関係団体と連携し、11月に実施する方向。

健康増進課：机上配付のパンフレット「日曜日は食べつくスープ！」は、食品ロス削減を呼びかけるため、資源循環政策課が作成したもの。余った食材は日曜日にスープにして食べつくそう、ということレシピとともに提案している。

なお、昨年度のインターネット市民意識調査によると、朝食での野菜の食べ方は、「みそ汁・スープ」が最も多い結果だった。朝食での野菜の摂取と、食品ロス削減を合わせて啓発していきたい。

次に、健康増進課が中心となり、市全体で実施する食育関連事業について、資料3から抜粋して説明する。1ページ目（4）「クリアファイル」（机上配付）は、各区役所保健センターの離乳食教室等において市民へ配布し、「さいたま市5つの『食べる』」について周知・啓発している。「さいたま市の食育取組状況」は、資料2の

内容から今年度の予定を抜き、平成30年度の取組状況として製本する予定。

2 ページ目 2) 5つの「食べる」の推進 について。令和元年度の重点目標は、「いっしょに楽しく」食べる”。家族や仲間などと食事や料理を楽しみ、人とのつながりを深めることを推進していく。普及・啓発のため、机上配付のポスターとウェットティッシュを作成した。配付先は資料3に記載のとおり。

3) 重点プロジェクトの推進 (1) 朝食 について。本市では、「毎年10月は朝ごはんを食べよう強化月間」として、広報・啓発活動を強化している。その一環として、啓発用リーフレットを作成する。資料4が、今年度のリーフレットの案。公立保育園のすべての児童の保護者へ配付するほか、私立保育園、幼稚園、学校、公共施設等へ配布予定。朝ごはんを食べる市民を増やせるよう、案について、委員の皆様からご意見をいただき、よりよいものに仕上げたい。

資料3 4) 各ライフステージにおける食育の推進 (1) 「さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向け」(机上配付)は、増刷を予定しており、こちらについても、委員の皆様からご意見があれば伺いたい。(2) 「乳幼児期における食育取組事例集」(机上配付)は、昨年度の保育園、幼稚園の取組事例をまとめたもの。各施設における食育の参考としていただくため、本市の食育に関するウェブサイト「さいたま市食育ナビ」でも公開している。今年度も作成予定。

会 長：ただいまの事務局・関係課の説明について、ご質問、ご意見などいかがか。

農業政策課のパンフレットはインターネットでも見られるのか。

農業政策課：さいたま市ホームページにPDFデータで公開しており、同じ内容をご覧いただける。

会 長：健康教育課の取組、統一メニューは、喫食状況はわかるか。

健康教育課：その日の喫食状況を数値としては調査していないが、各学校の栄養教諭・学校栄養職員から、大変好評で、よく食べていたという声をいただいている。

会 長：それでは、健康増進課(事務局)より提案のあった内容について協議したい。

1 点目、資料4朝ごはんを食べよう強化月間リーフレット(案)について。

裏表に記載の4つをセットで配るのか。

事務局：資料4はこの状態で1枚の配布物となる。子どもが描いた絵4作品を掲載し、それぞれ関連するコメントを付け、朝ごはんを食べることを啓発する。

鹿島委員：事前に資料4を見たときに、どれか一つに決めるのかと思い、吹き出しを見ると、1番目は中学生向き、2番目は小学生向き、3番目は一人暮らしの人や初めて料理を作る人にはすごくいい吹き出しだと思った。年代別で配るのかと思ったが、全部がこのようにまとめれば、だれでも対象になるのでいいと思う。

会 長：配布先は基本的には保育園なのか。

事務局：公立保育園61園に通う全児童の保護者へ配布する。公共施設等へ配布し「ご自由にお取りください」とする。私立保育園、幼稚園、学校へは、主に職員向けに配布し、啓発に活用していただくことを想定している。

会 長：インターネットに載せるのか。

事務局：さいたま市ホームページ、「さいたま市食育ナビ」の両方に掲載予定。

金沢委員：裏面「不足しがちな野菜を朝ごはんでしっかりと」というのはいいと思うが、ずいぶん割り切っているかな、食べないよりはいいのかな、という感じが少しした。冷凍野菜とか、コンビニやスーパーで買うとか、早朝営業の飲食店で食べるとか、こういう時代なのだなと。これは大人に呼びかけるということか。

事務局：朝食を食べない割合、野菜を食べない割合が高い世代が、10代後半から20代、30代あたりまでとなっており、主にそういった若い世代に向けた内容である。

金沢委員：夕方遅い時間に行くと、菓子パンをいっぱい買っていくお母さんがいる。夕食には食べないだろうと周りの人に話をしたら、「朝ごはんなんですよ」と。食べないよりはましだという考え方もあると思うが、糖分が多くなるのではないかと。「手軽に買って」というと、「野菜を朝食でしっかりと」といっても、あまり気にせず食べてしまう感じがするが、とりあえず最初の一步ということだと思う。ごはん、パン、めんばかり食べない、炭水化物や砂糖の摂取が多すぎる、これからはそういうことも考えたパンフレットもいいかなと思う。

会 長：ごはんも質を考えなければいけないということ、今回は、朝ごはんということで、すぐ口にできるものとしたと思うが、これだけではなく、きちんとした栄養バランス、三食を主体に考えることが重要である。

江崎委員：小児科で栄養相談をした。看護学生の実習生が3人来て、その中の男の子が朝食を食べてこなかった。どうしてか聞くと、「前の日に用意がなかった、食べるものがなかったから」と。「共食」とあるが、前の日に家族で準備をしたらどうかと思う。野菜スープとか、お母さんと子どもと、今日残ったものをスープにしようね、と言って作るのもいいかなと思う。保育園へ連れていくときも、時間がないからと車で食べさせたり、自転車の後ろに乗せて食べさせたりというお母さんがいっぱいいる。前の日に準備すると早くできる。それもパンフレットに付け加えると、皆さん準備しやすいと思うし、親子のコミュニケーションにもスキンシップにもなる。お子さんが朝起きて、自分が参加したものは「食べよう」という風になる。参考にいただければと思う。

会 長：朝ごはんは、限られた時間なので、前の日に、というのが今のご意見。早寝早起き朝ごはん運動というのがあったが、早く起きるために早く寝ましょう、と。そこもままならない状況で保育園に連れて行ったりしていると思うので、前の日に取り組むというのも一つの考え方かもしれない。

事務局：いただいたご意見を踏まえ、再度検討し、作成したい。

会 長：朝ごはんを食べる市民を増やすための提案など、リーフレットの内容も含め、皆様からお話しいただきたい。

若杉委員：金沢委員がお話したことと同様に考えている。

金沢委員：（追加の発言は無し）

秋山委員：朝ごはんを食べるという課題は、大学生を見ていて、栄養士を目指している割に食べていない学生が多い。内容も確かに大事だが、食べる時間、準備する環境、そうといったことも含めて朝食を食べるということを啓発する必要があると思う。

加藤委員：食べない人と食べる人の差があると思う。食べない人にいきなりバランスよく食べましょうというのは、やはり無理な話なのだろうと思う。食べない人にはまず牛乳1杯でも、みかん1個でもいいから食べるという習慣を持ってもらって、そこからバランスよくするにはどうするか、食べる時間、生活習慣を変えていくにはどうするか。いきなりあれもこれもというのは、そうそう人の習慣は変えられないと思うので、そういうところから少しずつ、一緒に方法を考えていくのがいいと思う。

湊委員：資料6食育ナビのアクセス数上位コンテンツのどの時期にも、「コショク」ってなんですか？という記事が入っているの、「コショク」について提示しては。朝食の中では、みんなで一緒にというところになると思うが、皆さんに理解してもらうために、取り上げていただけたらいいのかなと思う。

鹿島委員：親子クッキングを行うと、幼稚園や小学生でも包丁を使わずに手でちぎったりしてできるものを、本当に喜んで作るの、参加することもいいことだと思う。男の手料理を行うと、昔からの簡単な家庭料理の作り方を全く知らないの、それを知った喜び、例えば、さばの味噌煮も想像していたのと違ったと喜んで、「こうやって作るんですね」「帰ったら私が作ろう」という感じになるので、参加すると食に興味をわくのではないかなと思う。

リーフレットは、せっかく小学校や中学校の生徒さんが描いたので、小学校・中学校にポスターでもいいから還元するといいのでは。

給食の献立を見て、資料6食育ナビの「むらくも汁」「くわいご飯」「つみっこ」などのアクセスが増えたのではないかなと思う。給食だよりも作り方など載せていただいているので、皆さんわかると思う。でも初めての方は、どんなものだろうと食育ナビで見てくれていると思う。レシピに皆さんアクセスしているので、献立のヒントを求めている、どうやって作ろうか悩んでいる方がたくさんいるということ。献立に興味を持ってくれる人がせっかくいるので、そのページに「みんなで食べる」とか「共食」とか書いておくと、目について、ついでに見てくれるのではないかなと思う。

吉田委員：幼稚園とか保育園にリーフレットを置くという話だが、今、一番朝食を食べないのは、単身世帯が増えているということで、高齢者もちろんそうだが、若い方は結婚がだんだん遅くなっているということで、20代後半から30代前半くらいまでの単身者。昔で言うと結婚して、朝食を食べ始めた、それが今、単身者が増えて、うちの会社の若いものもそうだが、食べてこない。食べてこない方に伝わる内容、配り方で、もっと朝食を食べてもらいたい。

リーフレット裏面の「朝食で野菜をとる」というのは非常にいいことだと思う。先ほど話があったが、最初はバランスよくとるとするのは難しいと思うが、簡単に食べられるものから食べていただきたい。その辺の年齢の方に伝わるように出せない

かなと思った。

磯部委員：朝食は子どもには必要なことだと思うが、どんなに頑張っても両親や母親が若いうちに食べていなかったものを子どもに食べさせるということが、常日頃大変なのかなと。すぐそばの保育園に、7時過ぎるとお父さんが子どもを連れてきて、菓子パンをくわえて泣く子を保育園へ送っていくのを見ると、これもしかたないのかなと思うが、「保育園でちゃんと整ったお昼ごはんを食べているから何とか生活ができる」と言われて、そういうことか、と。我が家は、子どもたちは「朝食を食べないとお昼までもたない」と言うので、朝はお味噌汁とごはんを食べ、孫たちへもおのずと、「食べたくなくてもお味噌汁だけでも飲んでいきなさい」、「具がいっぱいあるんだから食べていきなさい」と言っている。みんな同じではないと思うが、少しでもいいから声かけをして、何でもいいから食べるなり飲ませることをしてもらいたい。泣き泣きパンを食べている子どもたちが大きくなったら、また同じことを繰り返すのかなと思う。かわいそうに、なんで菓子パンなのと思う。忙しい世の中だから仕方ないのだろうが、もう少し子どもを見てあげてほしいと思う。

佐藤委員：食べさせる、食べさせないは親しだいだと思う。私が必要だなと思うのは親の教育。親の教育をしない限りは子どもには食べさせない、と。我々の育った時は、夕飯を食べて、その残りを朝食で育った時代で、親が必ず早く起きて、食べさせてくれていた、残りものでも食べさせた。結局は、親しだい、教育しだい、認識を持てるか持てないか、そういうところだと思う。自分の子どもがかわいいと思ったら、少しでも早く起きて、自分の時間を割いてでも子どものために尽くすのが親だと思っている。みんなで力を合わせて、朝ごはんを食べさせられるように頑張っていきたい。

小澤委員：保育園に勤めているので、親御さんたちの、皆さんの先ほどの発言の様子が本当にそのまま、ひどい家庭だと、1歳を過ぎていてご飯は食べられるが、朝はミルクだけで家を出てきて、そのお母さんはプロテインだけ飲んでいる。本当に口にパンが入った状態で預けようとするので、「お口の中ごっくんしてから預けてください」と職員も伝えている。園日より等では栄養士がいろいろ力を入れて、作りやすい献立を説明したり、朝ごはんの大切さについて毎月訴えてはいる。しかし、そういった現状があるので、公立保育園にこのリーフレットを配るということだが、ぜひ私立の保育園にもいただきたい。行政からの素敵なリーフレットを配ることで、また変わることもあるかと思うので、私立の方にももう少し部数を増やしていただけたら嬉しい。

溝口委員：親子の時間が減ってしまうこのご時世、親御さんも忙しいのもあると思うが、小学校高学年になってくると、寂しくて先生にあたってしまったり、友だちをいじめてしまったり、そういった子はお母さんとあまり触れ合ってなさそうな家庭が多いなと感じている。朝ごはんだけではないと思うが、一緒に食べる、一緒に作るというのは打ち出していただけたらと思う。

江崎委員：孫が小学校に行っているが、「小学校でトイレに行けない、だから朝ごはんは食

べない」というお友だちがいるそう。授業中は先生がだめと言うと行けないし、休み時間も時間がないから行けないし、だから朝ごはんは食べないとのこと。小学校の方で、先生が「いいよ」「いってらっしゃい」と言っていたら安心して食事でもできると思う。

中川委員：先ほど親しいというご意見があったが、まさにそうだと思っている。食育を受ける人に何か教えるというだけではなくて、家庭とか地域の場合とかで子どもに対して教えるのが親だったりした場合、どう親が教えればいいのかというところまで考えるのが食育の推進にもあたるのかなと思っている。そういったところも一緒に考えていければいいと思う。

リーフレットにふりがなをふっているのはとてもいいことだと思うが、「排便」とか「基礎代謝量」といった言葉は、ふりがなが必要な人にとっては難しすぎる言葉ではないか。例えば「うんち」とか「エネルギー」みたいなわかりやすい言葉に置き換えるといいのかなと思った。最後のポスター「一日の元気は朝ご飯から！」と吹き出しの内容「朝ごはんは、コミュニケーションの場」が直接的には結び付きにくいと感じた。ワンクッションこのポスターを受けたうえで、「コミュニケーション」というように持っていくと、読んだ方がもっとすんなり受け取れるのかなと思った。

会 長：先ほどから指摘のある立ち食い、電車の混んでいる中で食べている人もいるが、食べないよりはましということで出てきたのかもしれない。ただ「朝ごはんを食べる」だけではなくて、マナーまで指導するか。「朝ごはんを食べよう」の前に「自宅で」とか「おうちで」とか、何かそういう言葉をつけるか。また、今出たような意見をリーフレットに載せるには字がごちゃごちゃしてしまうのであれば、インターネットに載せるということでも皆様からの意見を反映できるのではないかな。事務局は、意見を踏まえ作成を。

会 長：次に、事務局からの提案2点目、さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向けリーフレットについて。この内容で増刷するということだが、ご意見などいかがか。これは平成23年から配布しているのか。

事務局：平成23年に作成し、この年か翌年から配布している。

会 長：それからずっと変わっていないということか。

事務局：食事摂取基準の改定に合わせてエネルギーの記載を修正しているが、それ以外は若干のレイアウト変更で、内容は大きく変えていない。

会 長：来年、食事摂取基準が変わるが、どうするのか。

事務局：今年度は、食事摂取基準2020年版が決定する前に増刷予定なので、この内容で増刷すると思うが、来年度はエネルギーが修正になる可能性がある。

会 長：あまり数字は変わらないと思う。2020年版(案)は厚生労働省のホームページに出ているので確認を。増刷までにわかっているようなら修正を。

5 その他

(1) 「さいたま市食育なび」について

- ・ さいたま市食育・健康なび リーフレット 資料5
- ・ さいたま市食育なび アクセス数の推移 資料6
- ・ さいたま市食育なび 団体会員登録申請書 資料7

事務局：「さいたま市食育なび」では、食育の基礎知識、学校や保育園の給食レシピ、市の食に関するイベント等、食に関する情報を掲載している。子育て世代を中心とした若い世代が、「食育なび」を通して食に関する正しい情報を得て、望ましい食生活を実践できるようサイトの周知に努めており、毎年市内の幼稚園や保育園、学校、児童センターや放課後児童クラブ等に資料5のリーフレットを配布している。

(月別アクセス数、年度別アクセス数、アクセス数上位コンテンツ、団体会員登録について、資料に基づき説明。)

会 長：ただいまの事務局の説明について、ご質問、ご意見などいかがか。

活動紹介というのは、どのくらいの間隔で更新されるのか

事務局：団体会員登録された団体は、自由にいつでも活動紹介の記事を作成し、「公開依頼」ができる。健康増進課では、毎日、団体からの公開依頼がないか確認しており、依頼から1～2日後には掲載される。

会 長：本日の議事は全て終了となるが、委員の皆様から何かあるか。

加藤委員：日本栄養士会では、8月4日を「栄養の日」として、8月1日から1週間を「栄養週間」ということで活動しており、今年で3年目になる。厚生労働省、農林水産省、自治体の後援を受け、埼玉県栄養士会でも日本栄養士会と一緒に、食や栄養に対して興味を持ってもらえるようなイベントを実施している。

今年も8月3日、浦和区にある埼玉県栄養士会の会議室で、エプロンシアターや栄養相談を行う。協賛企業の協力で、キウイフルーツ、野菜ジュース、ヨーグルトなどの配布も行う。8月4日、マルエツのイトピアの協力をいただき、県内4店舗でもイベントを行う予定。チラシを配布したが、興味のある方は、埼玉県栄養士会までお問い合わせいただければと思う。

6 閉会

事務局：次回の協議会は、令和2年1月に開催予定。

(閉会)